

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
17.13	1日30分以上の軽度から中等度の強度の身体活動を、規則的に、できれば毎日行なう6歳以上の人口を増加させる						
	6歳以上		30				
	18歳以上						
	週5回以上行っている者	22 (1985)	30		30 (1998)	100	
	週7回以上行っている者	16 (1985)	30		20 (1998)	29	
a	18歳以上のヒスパニックで週5回以上行っている者	20 (1991)	25		29 (1998)		追加項目
	慢性疾患や障害をもっている者のうち、体調管理に必要な地域や自助グループの情報も含めた、正式な患者教育を受けた者の割合を増加させる		40				
17.14	糖尿病を有する者(教室)	32 (1983-84)	75	43 (1993)	42 (1998)	23	
a	糖尿病を有する者(相談)	68 (1983-84)					
b	喘息を有する者(教室)	9 (1991)	50	10 (1993)	8 (1998)	-2	
c	糖尿病を有する黒人(教室)	34 (1991)	75		45 (1998)		追加項目
d	糖尿病を有するヒスパニック(教室)	27 (1991)	75		31 (1998)		追加項目
	子供に対し、視力、聴力、言語障害の有無を日常的に診察し、また他の発育状況についても評価を行なうプライマリケア提供者の割合を増加させる		80				
17.15	全(子供)患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア提供者の割合						
	視力検査(3歳以上)						
	小児科医	55 (1992)	80				
	開業看護師	49 (1992)	80				
	家庭医	30 (1992)	80				
	聴力検査(3歳以上)						
	小児科医	47 (1992)	80				
	開業看護師	46 (1992)	80				
	家庭医	19 (1992)	80				
	言語評価						
	小児科医	65 (1992)	80				
	開業看護師	51 (1992)	80		49 (1997-98)		
	家庭医	39 (1992)	80				
	運動発達評価						
	小児科医	72 (1992)	80				

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	開業看護師 家庭医	56(1992) 45(1992)	80 80		53(1997-98)		
	視力障害の治療/紹介						
	小児科医 開業看護師 家庭医	67(1992) 35(1992) 56(1992)	80 80 80				
	聴力障害の治療/紹介						
	小児科医 開業看護師 家庭医	66(1992) 35(1992) 55(1992)	80 80 80				
	言語障害の治療/紹介						
	小児科医 開業看護師 家庭医	62(1992) 34(1992) 48(1992)	80 80 80				
	運動障害の治療/紹介						
	小児科医 開業看護師 家庭医	55(1992) 33(1992) 49(1992)	80 80 80				
17.16	子供の重度の聴力障害が発見される時期を早くする(平均月齢)	24-30(1988)	12	27(1991)	29(1998)	-13	
a	黒人		12				追加項目
	65歳以上の高齢者に対し、排尿障害や視力、聴力、認知、その他の機能障害について評価を行なう プライマリケア提供者の割合を増加させる		60				
17.17	全(65歳以上)患者の81-100%にサービスを提供した プライマリケア提供者の割合						
	視力検査						
	開業看護師 産婦人科医 内科医 家庭医	24(1992) 3(1992) 15(1992) 12(1992)	60 60 60 60		19(1997-98)		
	聴力検査						
	開業看護師 産婦人科医 内科医	16(1992) 2(1992) 9(1992)	60 60 60		13(1997-98)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	家庭医	7(1992)	60				
	身体機能評価						
	開業看護師	41(1992)	60		35(1997-98)		
	産婦人科医	18(1992)	60				
	内科医	42(1992)	60				
	家庭医	26(1992)	60				
	痴呆評価						
	開業看護師	28(1992)	60		22(1997-98)		
	産婦人科医	9(1992)	60				
	内科医	23(1992)	60				
	家庭医	13(1992)	60				
	排尿障害について質問						
	開業看護師	33(1992)	60		24(1997-98)		
	産婦人科医						
	内科医	30(1992)	60				
	家庭医	15(1992)	60				
	視力障害の治療/紹介						
	開業看護師	33(1992)	60				
	産婦人科医	35(1992)	60				
	内科医	63(1992)	60				
	家庭医	54(1992)	60				
	聴力障害の治療/紹介						
	開業看護師	30(1992)	60				
	産婦人科医	34(1992)	60				
	内科医	52(1992)	60				
	家庭医	46(1992)	60				
	運動機能補助のための処方/生活環境改善						
	開業看護師	18(1992)	60		25(1997-98)		
	産婦人科医	15(1992)	60				
	内科医	31(1992)	60				
	家庭医	25(1992)	60				
	痴呆の調査/治療可能な原因に関して紹介						
	開業看護師	31(1992)	60		28(1997-98)		
	産婦人科医	27(1992)	60				
	内科医	54(1992)	60				

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	家庭医	40(1992)	60				
	排尿障害の治療/紹介						
	開業看護師	31(1992)	60		28(1997-98)		
	産婦人科医	56(1992)	60				
	内科医	37(1992)	60				
	家庭医	31(1992)	60				
17.18	閉経前後の女性のうち、骨粗鬆症予防のためのホルモン補充療法の効果やリスクについて、相談をしたことのある者の割合を増加させる						
	40-60歳の女性	80(1994)	90		89(1998)	90	
	40-49歳の女性	76(1994)	90		87(1998)	79	
	50-60歳の女性	83(1994)	90		90(1998)	100	
17.19	障害者を雇用する方針や計画をもつ50人以上の規模の職場の割合を増加させる						
	自発的な方針をもつ職場	37(1986)	75	(1990:法律制定)	100(1999)	166	
17.20	慢性疾患や障害を有する、あるいはそのリスクを有する子供のために、公共法101-239で定められているようなサービスシステムがある州を増加させる		50				
17.21	胃潰瘍の再発を予防し、有病率を減少させる(1000人対)						追加項目
	18歳以上	19.9(1991)	18	18	27.7(1998:比較不能のデータ)	-411	
17.22	人種的・民族的マイリテイや低所得者、障害者のデータを含め、疾病予防や健康増進に関する国民データにおける重大なギャップを確認するための、国家的な手法を開発、実施する	ギャップは未確認 仕組は未確立					他分野からの追加項目
17.23	需要にあった(ギャップを生じないようにデータを集める)仕組を確立する						
	年1回の眼底検査を受ける糖尿病患者の割合を増加させる(過去1年以内に受けた者)						
	18歳以上	49(1989)	70		53(1998)	19	追加項目

18 HIV感染症

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
18.1	年間のエイズ発生率の増加を抑制する(18歳以上、10万対)	17.0 (1989)	43		19.5 (1998)	Met	
a	男性同性愛経験者(発生総数)	27000 (1989)	48000		17847 (1998)		
b	黒人	44.4 (1989)	136		82.9 (1998)		
c	ヒスパニック	34.9 (1989)	76		33.0 (1998)		
d	女性	3.5 (1989)	13		8.8 (1998)		追加項目
e	静注麻薬使用者(発生総数)	10300 (1989)	25000		12099 (1998)		追加項目
18.2	HIV感染者の増加を抑制する(13歳以上、10万対)	400 (1989)	400		310-420 (1992)	Met	目標値800より変更
a	男性同性愛経験者(15歳以上)	15000-61800 (1989)	20000		3900-47400 (1992)		ベースラインの見直しあり
b	静注麻薬使用者(15歳以上)	0-48200 (1989)	40000		600-52900 (1992)		ベースラインの見直しあり
c	出産した女性(15-44歳)	160 (1989)	100		160 (1994)		
18.3	性交渉の経験のある若者の割合を減少させる						
	15歳						
	全女性	27 (1988)	15		22 (1995)	42	
	女子学生			36 (1991)	43 (1999)		
	全男性	33 (1988)	15		27 (1995)	33	
	男子学生			44 (1991)	34 (1999)		
a	全黒人男性	69 (1988)	15		58 (1995)		追加項目
	17歳			79 (1991)	68 (1999)		
	非ヒスパニックの黒人男子学生						
	全女性	50 (1988)	40		51 (1995)	-10	
	女子学生			66 (1991)	40 (1999)		
	全男性	66 (1988)	40		53 (1995)	50	
	男子学生			68 (1991)	44 (1999)		
b	全黒人男性	90 (1988)	40		79 (1995)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人男子学生			90 (1991)	82 (1999)		
c	15-17歳の全黒人女性	66 (1988)	40		(1995:非ヒスパニック黒人女性)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人女子学生			84 (1991)	73 (1999)		
18.4	性的に活発で未婚の者のうち、最近の性交渉でコンドームを使用した者の割合を増加させる						
	15-44歳の女性(ハートナーの使用)	19 (1988)	50		25 (1995)	19	
a	15-19歳の女性(ハートナーの使用)	26 (1988)	60		37 (1995)		
	9-12年生の15-19歳の女性(ハートナーの使用)			46 (1993)	51 (1999)		
b	15-19歳の男性	57 (1988)	75				
	9-12年生の15-19歳の男性			59 (1993)	66 (1999)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
c	静注麻薬使用者	34(1992)	75				
d	15-44歳の黒人女性(パートナーの使用)薬物依存治療を受ける静注麻薬使用者の割合を増加させる	12.4(1988)	75		(1995:非ヒスパニック黒人女性) 25		
18.5	現在静注麻薬を使用している者のうち、清潔な器具(注射器、注射針など)のみを使う者の割合を増加させる(過去30日以内)	11(1989)	50	45.9(1993)	34.1(1995)	59	
18.6	輸血によるHIV感染の危険を減少させる(血液単位あたり)	30.8(1991)	75	57.7(1992-93)	60.0(1992-96)	66	目標値50より変更
18.7	自分の血液の状態を理解しているHIV感染者の割合を増加させる	1/40000 -150000(1989)	1/ 250000		1/ 625000(1997)	131	
18.8	HIV陽性者のうち再度カウンセリングに来る者の割合 HIVや他の性行為感染症の予防について相談を行なうプラマイケア及び精神保健ケア従事者の割合を増加させる(81-100%にサービスを提供したプラマイケア従事者の割合)	72.5(1990)	80		63(1998)		検査を受けた者の割合より変更
a	高発生地域の医療従事者		90				
b	家庭医	27(1992)	75				
c	内科医	30(1992)	75				
d	業務看護師	50(1992)	75		45(1997-98)		
e	産婦人科医	46(1992)	75				
f	小児科医	46(1992)	75				
g	精神保健ケア従事者		75				
18.10	包括的な学校保健教育の一部として、HIVや他の性行為感染症について、予防や感染の方法に関する科学的な情報に基づいた適切な教育プログラムを有する学校の割合を増加させる 最低クラスの性行為感染症の教育	95(1988)	95				教育の内容を明確化
	中学・高校の割合						
	HIV予防についての規定の教育				86(1994)		
	性行為感染症についての規定の教育				84(1994)		
18.11	大学でHIVや他の性行為感染症の情報、教育、及び相談を受けた学生の割合を増加させる(18歳以下) AIDSあるいはHIV感染症予防の情報 性行為感染症予防の情報 AIDSあるいはHIV感染症についての講義	49.1(1995) 43.4(1995) 41.4(1995)	90 90 90				大学の割合より変更

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
18.12	麻薬常習者に対して、HIV感染の危険を減少させる普及的な事業を行なう市の割合を増加させる(人口10万人以上の市)	35 (1991)	90	32 (1992)	32 (1992)	-5	
18.13	ハイリスクな個人やそのパートナーに対して、HIV感染症や細菌性性行為感染症の1次・2次予防を提供する医療施設の割合を増加させる						
	家族計画クリニック	40 (1989)	50				
	X基金による家族計画クリニック				95 (1994)		
	性行為感染症の診断 (HIVを除く)				98 (1994)		
	性行為感染症のカウンセリング (HIVを除く)				93 (1994)		
	性行為感染症の治療 (HIVを除く)						
	淋病						
	患者の診断			97 (1990)			
	患者の治療			82 (1990)			
	パートナーへの告知			23 (1990)			
	パートナーの診断			60 (1990)			
	パートナーの治療			62 (1990)			
	梅毒						
	患者の診断			86 (1990)			
	患者の治療			48 (1990)			
	パートナーへの告知			29 (1990)			
	パートナーの診断			57 (1990)			
	パートナーの治療			40 (1990)			
	クラミジア						
	患者の診断			66 (1990)			
	患者の治療			73 (1990)			
	パートナーへの告知			15 (1990)			
	パートナーの診断			29 (1990)			
	パートナーの治療			50 (1990)			
	HIV						
	患者への診断前カウンセリング			66 (1990)	82 (1994)		
	患者の診断			60 (1990)	74 (1994)		
18.14	職業性HIV感染の危険のある職場で、HIVを含む経血液感染症への暴露を防ぐための規制を行なう職場の割合を増加させる	100 (1992)	100	100 (1993)	100 (1999)	100	
18.15	性的な経験を有する17歳以下の若者のうち、過去3ヶ月間性交渉を持っていない者の割合を増加させる(15-17歳)						他分野からの追加項目
	全女性	23.6 (1988)	40		27 (1995)	21	
	女子学生			25 (1991)	25 (1999)		
	全男性	33 (1988)	40		37 (1995)	57	

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
18.16	男子学生 包括的なHIV/AIDSプログラムを実施した職場の割合を増加させる			36(1991)	32(1999)		
	指針、管理トレーニング、従業員教育がある企業						追加項目
	小企業(従業員数15-49人)	2(1995)	10		7(1995)		
	中企業(従業員数50-749人)						
	大企業(従業員数750人以上)	25(1995)	50				
	指針がある企業						
	小企業(従業員数15-49人)				18(1995)		
	中企業(従業員数50-749人)				42(1995)		
	大企業(従業員数750人以上)				79(1995)		
	管理トレーニングがある企業						
	小企業(従業員数15-49人)				1(1995)		
	中企業(従業員数50-749人)				41(1995)		
	大企業(従業員数750人以上)				77(1995)		
	従業員教育がある企業						
	小企業(従業員数15-49人)				6(1995)		
	中企業(従業員数50-749人)				16(1995)		
	大企業(従業員数750人以上)				32(1995)		
	連邦政府機関	80(1995)	100				
18.17	連邦基金で設立されたプライマリケアクリニックのうち、薬物乱用治療プログラムと連携をもつ割合を増加させる						
	連邦基金で設立された薬物乱用治療プログラムのうち、プライマリケアクリニックと連携をもつ割合を増加させる						追加項目
			40				
			40				

19 性行為感染症

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
19.1	淋病の発生率を減少させる(10万対)	300(1989)	100	173(1993)	133(1999)	84	目標値225より変更
a	黒人(非ヒスパニック)	1990(1989)	650	1175(1993)	849(1999)		
b	15-19歳の若者	1123(1989)	375	728(1993)	534(1999)		
c	15-44歳の女性	501(1989)	175	309(1993)	283(1999)		
19.2	若年女性(15-24歳)のクラミジア感染症の有病率を減少させる						検査法の進歩により対象をクラミジア感染症に限定
	15-19歳の女性	12.2(1988)	5		6.6(1999)	78	ベースラインの見直しに伴
	20-24歳の女性	8.5(1988)	5		4.5(1999)	114	い、目標値の変更
19.3	一次性・二次性梅毒の発生率を減少させる(10万)	18.1(1989)	4	10.3(1993)	2.5(1999)	111	目標値10より変更
a	黒人	118(1989)	30	75(1993)	15(1999)		目標値65より変更
19.4	先天性梅毒の発生率を減少させる(出生10万対)	91.0(1990)	40	80.9(1993)	14.3(1999)	150	ベースラインの見直しに伴
a	黒人	415.9(1992)	175		57.9(1999)		い、目標値の変更
b	ヒスパニック	134.6(1992)	50		20.4(1999)		追加項目
19.5	性器ヘルペスや疣贅の年間の初診患者を減少させる						追加項目
	性器ヘルペス	163000(1988)	138500	172000(1993)	224000(1999)	-249	ベースラインの見直しに伴
	疣贅	290000(1988)	246500	167000(1993)	240000(1999)	115	い、目標値の変更
19.6	骨盤内感染症の発生率を減少させる						
	15-44歳女性の骨盤内感染症による入院(10万対)	311(1988)	100	196(1993)	153(1998)	75	目標値250より変更
	骨盤内感染症の初診患者数	430800(1988)	290000		251000(1999)	128	追加項目
a	15-44歳の黒人女性の入院(10万対)	655(1988)	150		266(1998)		追加項目
b	15-19歳の若年女性の入院(10万対)	342(1988)	110		158(1998)		追加項目
19.7	性行為感染によるB型肝炎を減少させる(発生総数)	47593(1987)	30500	35849(1993)	24527(1999)	135	ベースラインの見直しあり
19.8	過去1年以内の淋病再感染の割合を減少させる	20(1987)	15	16.7(1992)	17.2(1999)	56	
a	黒人	21.3(1992)	17		19.2(1999)		追加項目
19.9	性交渉の経験のある若者の割合を減少させる						
	15歳						
	全女性	27(1988)	15		22(1995)	42	
	女子学生			36(1991)	43(1999)		
	全男性	33(1988)	15		27(1995)	33	
	男子学生			44(1991)	34(1999)		
a	全黒人男性	69(1988)	15		58(1995)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人男子学生			79(1991)	68(1999)		
	17歳						
	全女性	50(1988)	40		51(1995)	-10	
	女子学生			66(1991)	40(1999)		
	全男性	66(1988)	40		53(1995)	50	
	男子学生			68(1991)	44(1999)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
b	全黒人男性	90 (1988)	40		79 (1995)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人男子学生			90 (1991)	82 (1999)		
c	15-17歳の全黒人女性	66 (1988)	40		(1995:非ヒスパニック黒人女性) 48 (1999)		追加項目
	非ヒスパニックの黒人女子学生			84 (1991)	73 (1999)		
19.10	性的に活発で未婚の者のうち、最近の性交渉でコンドームを使用した者の割合を増加させる						
	15-44歳の女性(ハートナーの使用)	19 (1988)	50		25 (1995)	19	
a	15-19歳の女性(ハートナーの使用)	26 (1988)	60		37 (1995)		
	9-12年生の15-19歳の女性(ハートナーの使用)			46 (1993)	51 (1999)		
b	15-19歳の男性	57 (1988)	75				
	9-12年生の15-19歳の男性			59 (1993)	66 (1999)		
c	静注麻薬使用者	34 (1992)	75				
d	15-44歳の黒人女性(ハートナーの使用)	12.4 (1988)	75		(1995:非ヒスパニック黒人女性) 25 (1999)		
19.11	ハイリスクな個人やそのパートナーに対して、HIV感染症や細菌性性行為感染症の1次・2次予防を提供する医療施設の割合を増加させる						
	家族計画クリニック	40 (1989)	50				
	X基金による家族計画クリニック						
	性行為感染症の診断(HIVを除く)				95 (1994)		
	性行為感染症のカウンセリング(HIVを除く)				98 (1994)		
	性行為感染症の治療(HIVを除く)				93 (1994)		
	淋病						
	患者の診断			97 (1990)			
	患者の治療			82 (1990)			
	パートナーへの告知			23 (1990)			
	パートナーの診断			60 (1990)			
	パートナーの治療			62 (1990)			
	梅毒						
	患者の診断			86 (1990)			
	患者の治療			48 (1990)			
	パートナーへの告知			29 (1990)			
	パートナーの診断			57 (1990)			
	パートナーの治療			40 (1990)			
	クラミジア						
	患者の診断			66 (1990)			
	患者の治療			73 (1990)			
	パートナーへの告知			15 (1990)			

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	ハートナーの診断			29(1990)			
	ハートナーの治療			50(1990)			
	HIV						
	患者への診断前カウンセリング			66(1990)	82(1994)		
	患者の診断			60(1990)	74(1994)		
	包括的な学校保健教育の一部として、HIVや他の性行為感染症について、予防や感染の方法に関する科学的な情報に基づいた適切な教育プログラムを有する学校の割合を増加させる						教育の内容を明確化
19.12	最低1クラスの性行為感染症の教育	95(1988)	95				
	中学・高校の割合						
	HIV予防についての規定の教育				86(1994)		
	性行為感染症についての規定の教育				84(1994)		
19.13	性行為感染症の患者を適切な治療によって正しく管理できるブライマリア従事者の割合を増加させる	70(1988)	90				
19.14	HIVや他の性行為感染症の予防について相談を行なうブライマリア及び精神保健ケア従事者の割合を増全患者の81-100%にサービスを提供したブライマリア従事者の割合	10(1987)	75				
	高発生地域の医療従事者		90				
a	家庭医	27(1992)	75				
b	内科医	30(1992)	75				
c	内科医	50(1992)	75		45(1997-98)		
d	業務看護師	46(1992)	75				
e	産婦人科医	46(1992)	75				
f	小児科医	46(1992)	75				
g	精神保健ケア従事者		75				
	細菌性性行為感染症(淋病、梅毒、クラミジア)の患者のうち、医療提供者により患者のハートナーへの告知がなされる者の割合を増加させる	20(1988)	50				
19.15	性的な経験を有する17歳以下の若者のうち、過去3ヶ月間性交渉を持っていない者の割合を増加させる(15-17歳)						
19.16	全女性	23.6(1988)	40		27(1995)	21	他分野からの追加項目
	女子学生			25(1991)	25(1999)		
	全男性	33(1988)	40		37(1995)	57	
	男子学生			36(1991)	32(1999)		
	大学でHIVや他の性行為感染症の情報、教育、及び相談を受けた学生の割合を増加させる(18歳以下)						他分野からの追加項目
19.17	AIDSあるいはHIV感染症予防の情報	49.1(1995)	90				
	性行為感染症予防の情報	43.4(1995)	90				
	AIDSあるいはHIV感染症についての講義	41.4(1995)	90				

20. 予防接種と感染症

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達率(%)	備考
20.1	予防接種によって予防可能な疾患を減少させる(症例数)						
	25歳以下のシフテリア	1(1988)	0	0(1993)	0(1999)	100	
	25歳以下の破傷風	3(1988)	0	4(1993)	5(1999)	-7	
	ポリオ(野生株ウイルス)	0(1988)	0	0(1993)	0(1999)	100	
	麻疹	3396(1988)	0	312(1993)	100(1999)	97	ベースラインの見直しあり
	風疹	225(1988)	0	192(1993)	267(1999)	-19	
	先天性風疹症候群	6(1988)	0	5(1993)	6(1999)	0	
	流行性耳下腺炎	4866(1988)	500	1692(1993)	387(1999)	103	
	百日咳	3450(1988)	1000	6586(1993)	7298(1999)	-157	
20.2	65歳以上の高齢者の、流行性肺炎及びインフルエンザによる死亡を減少させる(10万対)	19.9(1979-87)	15.9	21.0(1994)	15.8(1997)	103	ベースラインの見直しに伴い、目標値の変更
20.3	ウイルス性肝炎を減少させる(10万対)						
	B型肝炎	63.5(1987)	40.0	30.9(1993)	16.9(1999)	198	
	A型肝炎	33.0(1987)	16.1	28.2(1993)	18.8(1999)	84	ベースラインの見直しに伴い、目標値の変更
	C型肝炎	18.3(1987)	13.7	4.4(1993)	2.4(1998)	346	
	B型肝炎(症例数)						
a	静注麻薬使用者	44348(1987)	7932	15136(1993)	11506(1998)		
b	異性間交渉が活発な者	33995(1987)	22663	26289(1993)	21800(1998)		
c	男性同性愛者	13598(1987)	4568	9560(1993)	10900(1998)		
d	アジア/太平洋諸島民の子供	10817(1987)	1500	5576(1993)	3211(1999)		
e	職業的に感染の恐れのある者	3090(1987)	623	727(1993)	243(1999)		
f	乳幼児(慢性肝炎)	6012(1987)	1111	2464(1993)	1046(1999)		
g	アスカ原住民(新規のキャリア)	15(1987)	1	1(1993)	0(1999)		ベースラインの見直しに伴い、目標値の変更
	B型肝炎(10万対の症例数)						
h	黒人	52.8(1992)	40		24.7(1999)		追加項目
	A型肝炎(10万対の症例数)						
i	ヒスパニック	53.8(1992)	26.9		37.9(1999)		追加項目、目標値27から変更
j	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	256.0(1992)	128		19.7(1999)		追加項目
	C型肝炎(10万対の症例数)						

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
		17.2 (1992)	13.7		7.7 (1996)		追加項目、目標値13から変更
20.4	ヒスパニック 結核の発症率を減少させる(10万対)	9.1 (1988)	3.5	9.8 (1993)	6.4 (1999)	48	
	a アジア/太平洋諸島民	36.3 (1988)	15.0	44.5 (1993)	35.3 (1999)		
	b 黒人	28.3 (1988)	10.0	29.1 (1993)	16.8 (1999)		
	c ヒスパニック	18.3 (1988)	5.0	20.6 (1993)	12.4 (1999)		
	d アリカンテイアン/アラスカ原住民	18.1 (1988)	5.0	14.6 (1993)	11.8 (1999)		
20.5	集中治療中の患者の、術後感染や院内感染を減少させる						
	ICU患者の医療機器由来の院内感染(機器使用1000日あたり)						
	血行感染						
	一般/心臓ICU	6.9 (1986-90)	6.2		5.8 (1998)	157	
	外科/一般外科ICU	5.3 (1986-90)	4.8		5.7 (1998)	-80	
	小児科ICU	11.4 (1986-90)	10.3		7.8 (1998)	327	
	尿路感染						
	一般/心臓ICU	10.7 (1986-90)	9.6		6.4 (1998)	391	
	外科/一般外科ICU	7.6 (1986-90)	6.8		5.2 (1998)	300	
	小児科ICU	5.8 (1986-90)	5.2		5.3 (1998)	83	
	肺炎						
	一般/心臓ICU	12.8 (1986-90)	11.5		6.4 (1998)	492	
	外科/一般外科ICU	17.6 (1986-90)	15.8		13.4 (1998)	233	
	小児科ICU	4.7 (1986-90)	4.2		5.3 (1998)	-120	
	術後感染(手術100件あたり)						
	低リスク患者	1.1 (1986-90)	1.0		1.7 (1998)	-600	
	低-中リスク患者	3.2 (1986-90)	2.9		2.7 (1998)	167	
	中-高リスク患者	6.3 (1986-90)	5.7		4.1 (1998)	367	
	高リスク患者	14.4 (1986-90)	13.0		7.3 (1998)	507	
20.6	海外旅行者の疾病を減少させる(症例数)						
	腸チフス	280 (1987)	140	308 (1993)	277 (1999)	2	
	A型肝炎	4475 (1987)	1119	4581 (1993)	4112 (1999)	11	目標値640から変更
	マリア	932 (1987)	750	1275 (1993)	1065 (1999)	-73	目標値1000から変更
20.7	細菌性髄膜炎を減少させる(10万対)	6.5 (1986)	4.7		2.2 (1999)	239	
a	アラスカ原住民	33 (1987)	8		5.7 (1999)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
20.8	認可の小児ケアセンターにいる子供や、個人教育プログラム(IEP)や個人健康プラン(IHP)を提供されている子供の間の感染性下痢の割合を減少させる						
	0-5歳の子供	32 (1991)	24				
	0-3歳の子供	38 (1991)	28				
20.9	4歳以下の子供の急性中耳炎を減少させ、活動制限を受けたたり学校を欠席する日数を減少させる(子供100人あたりの日数)	135.4 (1987)	105.0	196.3 (1993)	103.4 (1996)	105	ベースラインの見直しあり
20.10	肺炎によって活動制限を受ける日数を減少させる(100人あたりの日数)						
	65歳以上の高齢者	19.1 (1987)	15.1	45.1 (1993)	80.7 (1996)	-1540	ベースラインの見直しに伴い、目標値の変更
	4歳以下の子供	29.4 (1987)	24.0	22.5 (1993)	17.1 (1996)	228	ベースラインの見直しあり
20.11	予防接種を受けた者の割合を増加させる						
	子供の基礎的予防接種						
	2歳以下の子供	54-65 (1985)	90				ベースラインの見直しあり
	19-35ヶ月の子供						
	DTP(3回以上)	69 (1991)	90		96 (1999)	129	
	ポリオ(3回以上)	53 (1991)	90		90 (1999)	100	
	麻疹を含む予防接種	82 (1991)	90		92 (1999)	125	
	B型肝炎(3回以上)	2 (1991)	90		94 (1999)	105	
	B型肝炎(3回以上)	16 (1992)	90		88 (1999)	97	
	4DTP/3ポリオ/1MMR	55 (1992)	90	67 (1993)	80 (1999)	71	
	認可の小児ケア施設にいる子供	94-95 (1987-88)	95		93-95 (1998-99)		
	幼稚園から中学終了後の教育施設にいる子供	97-98 (1987-88)	95		96-99 (1998-99)		
	B型肝炎予防接種						
	HBs抗原陽性の母親の乳児	40 (1991)	90		81 (1998)		
	職業的に感染の恐れのある者	37 (1989)	90		67 (1994)		
	薬物治療プログラムを受けている静注麻薬使用者		50				
	男性同性愛者	3 (1992-93)	50		9 (1994-98)		
	肺炎球菌予防接種						
	施設に入っている慢性疾患の者や高齢者	22 (1995)	80		28 (1997)	10	
	施設に入っていない65歳以上の高齢者	15 (1989)	60	28 (1993)	46 (1998)	69	ベースラインの見直しあり
a	65歳以上の黒人	6 (1989)	60		26 (1998)		追加項目、ベースラインの見直しあり
b	65歳以上のヒスパニック	11 (1989)	60		23 (1998)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	インフルエンザ予防接種(過去12ヶ月以内)						
	施設に入っている慢性疾患の者や高齢者	61(1995)	80		64(1997)	16	
	施設に入っていない65歳以上の高齢者	33(1989)	60	52(1993)	63(1998)	111	ベースラインの見直しあり
a	65歳以上の黒人	20(1989)	60		46(1998)		追加項目、ベースラインの見直しあり
b	65歳以上のヒスパニック	28(1989)	60		50(1998)		
20.12	(犬などによる咬傷後の)狂犬病感染の可能性に対する治療を減少させる(件数)	18000(1987)	9000	24700(1992)	20000- 40000(1997)	-133	
20.13	学校や就学前施設、ケア施設を対象に、全ての抗原に対しての予防接種法が制定されている州を増加させる	10-49(1989)	50	34-50(1992)	44-50(1999)	85	
20.14	予防接種に関する情報と相談を提供し、患者にとって適切な予防接種を行なうプライマリケア提供者の割合を増加させる		90				
	全患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア提供者の割合						
	子供						
	DTP予防接種						
	小児科医	86(1992)	90				
	開業看護師	76(1992)	90		78(1997-98)		
	家庭医	89(1992)	90				
	経口ポリオ予防接種						
	小児科医	87(1992)	90				
	開業看護師	76(1992)	90		79(1997-98)		
	家庭医	89(1992)	90				
	DT追加接種(18歳未満)						
	小児科医	79(1992)	90				
	開業看護師	71(1992)	90		72(1997-98)		
	家庭医	70(1992)	90				
	B型インフルエンザ菌予防接種						
	小児科医	85(1992)	90				
	開業看護師	68(1992)	90		74(1997-98)		
	家庭医	74(1992)	90				
	DT追加接種(18歳以上)						
	開業看護師	38(1992)	90				
	産婦人科医	4(1992)	90		40(1997-98)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	内科医	29 (1992)	90				
	家庭医	28 (1992)	90				
	インフルエンザ予防接種(65歳以上)				47 (1997-98)		
	開業看護師	42 (1992)	90				
	産婦人科医	6 (1992)	90				
	内科医	49 (1992)	90				
	家庭医	31 (1992)	90				
	肺炎球菌予防接種(65歳以上)						
	開業看護師	33 (1992)	90		43 (1997-98)		
	産婦人科医	5 (1992)	90				
	内科医	40 (1992)	90				
	家庭医	25 (1992)	90				
	推奨される予防接種を財政的な障害のために受けられない者がいないように、予防接種の財政的問題や提供方法を改善する						
20.15	予防接種への給付を行なう健康保険プランの割合						
	従来型保険プラン	45 (1989)	100	53 (1992)	53 (1992)	15	
	PPO	62 (1989)	100	65 (1992)	65 (1992)	8	
	HMO	98 (1989)	100	95 (1992)	95 (1992)	-150	
	成人の予防接種を提供する公衆衛生部門の割合を増加させる						
20.16	肺炎球菌予防接種	37 (1990)	90		48 (1993)	21	
	インフルエンザ予防接種	60 (1990)	90		91 (1993)	103	
	DT予防接種	70 (1990)	90				
	破傷風		90		85 (1993)		
	ジフテリア		90		77 (1993)		
	B型肝炎予防接種	77 (1992-93)	90				
20.17	結核高リスク群の中から、結核やその潜在感染の症例を積極的に発見するためのプログラムを実行している地域保健部門の割合を増加させる	80 (1992-93)	90				
20.18	結核感染が発見された者のうち、発症予防治療を完了する者の割合を増加させる	66.3 (1987)	85	65.3 (1993)	64.6 (1998)	-9	
20.19	インフルエンザの迅速ウイルス診断技術を有する検査室の割合を増加させる						
	三次医療機関	52 (1993)	85		58 (1997)	18	

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	二次医療機関	45 (1993)	50		46 (1997)	20	
	HMO	68 (1993)	50		68 (1997)	0	ベースラインの見直しあり

21. 臨床予防サーブिस

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
21.1	健康寿命を延長させる	64.0 (1990)	62	63.7 (1992)	65.2	120	
a	黒人	56.0 (1990)	60	55.6 (1992)	57.8 (1998:比較不能のデータ)		
b	ヒスパニック	64.8 (1990)	65	64.0 (1992)	66.3		
c	65歳以上の高齢者 (健康余命)	11.9 (1990)	14	11.9 (1992)	12.2		
21.2	アメリカ予防サーブिस検討委員会が推奨する、年齢や性別に適用した臨床予防のための検診や予防接種、また少なくとも健康相談を受けたことのある者の割合を増加させる						臨床予防サーブिसの内容を詳細にし、各項目ごとに特定の人口集団を設定
	19-35ヶ月の乳幼児						
	基礎的予防接種		90				
	DTP (3回以上)	83 (1992)			96 (1999)	186	
	ポリオ (3回以上)	72 (1992)			90 (1999)	100	
	MMR (麻疹/流行性耳下腺炎/風疹) (1回)	83 (1992)			92 (1999)	129	
	B型インフルエンザ菌 (3回以上)	28 (1992)			94 (1999)	107	
	B型肝炎 (3回以上)	16 (1993)			88 (1999)	97	
	4DTP/3ポリオ/1MMR	55 (1992)			80 (1999)	71	
	18歳以上						
	定期健康診断		91				
	18-64歳	74 (1991)			76 (1998)	12	
	65歳以上	67 (1991)			77 (1998)		
	過去5年以内のコレステロール検査	60 (1993)	75		67 (1998)	47	
	過去のコレステロール検査	63 (1991)	75		72 (1998)	75	
	低所得者	46 (1991)			55 (1998)		
	黒人	56 (1991)			67 (1998)		
	ヒスパニック	51 (1991)			56 (1998)		
	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	46 (1991)			53 (1998)		
	過去2年以内のコレステロール検査	50 (1991)	75		57 (1998)	28	
	低所得者	37 (1991)			43 (1998)		
	ヒスパニック	42 (1991)			45 (1998)		
	アジア/太平洋諸島民	45 (1991)			54 (1998)		
	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	38 (1991)			42 (1998)		
	過去10年以内の破傷風追加接種	52 (1991)	62		57 (1998)	50	
	65歳以上	29 (1991)			41 (1998)		

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
	ヒスパニック	45 (1991)			48 (1998)		
	アジア/太平洋諸島民	40 (1991)			45 (1998)		
	障害者	47 (1991)					
	過去の肺炎球菌予防接種(65歳以上)	21 (1991)	60		46	64	
	低所得者	17 (1991)			34		
	黒人	14 (1991)			26 (1998:比)		
	ヒスパニック	12 (1991)			23	較不能の	
	アジア/太平洋諸島民	15 (1991)			37	データ	
	過去12ヶ月以内のインフルエンザ予防接種(65歳以上)	42 (1991)	60		63	117	
	低所得者	36 (1991)			54		
	黒人	27 (1991)			46 (1998:比)		
	ヒスパニック	34 (1991)			50	較不能の	
	アジア/太平洋諸島民	29 (1991)			68	データ	
	過去3年以内のハツアースト(18歳以上の女性)	74 (1992)	85		79 (1998)	46	
	65歳以上	51 (1992)			64 (1998)		
	アジア/太平洋諸島民	62 (1992)			68 (1998)		
	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	64 (1992)			75 (1998)		
	障害者	65 (1992)					
	過去2年以内の乳房触診とマンモグラム(50歳以上の女性)	51 (1992)	60		64 (1998)	144	
	65歳以上	43 (1992)			58 (1998)		
	低所得者	30 (1992)			48 (1998)		
	アジア/太平洋諸島民	38 (1992)			55 (1998)		
	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	31 (1992)					
	障害者	44 (1992)					
	健康相談(過去3年以内の定期健康診断の際に、少なくとも1つのスクリーニングのための質問をされた)	56 (1991)	80		76 (1998)	83	
	65歳以上	42 (1991)			77 (1998)		
	アジア/太平洋諸島民	51 (1991)			76 (1998)		
21.3	予防や健康管理のために利用するかかりつけのプライマリケアサービスがある者の割合を増加させる						
	18歳以上	80 (1991)	95 84 (1994)		85	33	
a	ヒスパニック	63 (1991)	95 71 (1994)		72 (1998:比)		
	メキシコ系アメリカ人	57 (1991)	95 69 (1994)		66	較不能の	
b	黒人	78 (1991)	95 82 (1994)		83	データ	

番号	内容	ベースライン値	目標値	中間値	最終値	到達度(%)	備考
c	低所得者(所得が貧困レベル未満)	71 (1991)	95	73 (1994)	76 (1998:比較不能の)		
d	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	70 (1991)	95		77 (比較不能の)		追加項目
e	アジア/太平洋諸島民	70 (1991)	95		80 (比較不能の)		追加項目
21.4	少なくとも、アメリカ予防サービス検討委員会が推奨する検診、健康相談及び予防接種を財政的な障害のために行き届かない者がいないように、臨床予防サービスの財政的問題や提供方法を改善する						
	健康保険のない65歳未満の者の割合(年齢補正後)	15.7 (1989)	0	17.3 (1993)	17.5	-12	ベースラインの見直しあり
a	アメリカンインディアン/アラスカ原住民	36.1 (1989)	0		38.1		
b	ヒスパニック	31.3 (1989)	0		34.5		
	メキシコ系アメリカ人	38.1 (1989)	0		39.4		
	プエルトリコ住民	21.4 (1989)	0		19.0 (1997:比較不能の)		追加項目、ベースラインの見直しあり
c	黒人	20.7 (1989)	0		21.1		追加項目
	白人	22.0 (1989)	0		20.1 (比較不能の)		追加項目
21.5	連邦プログラム						
	検診	10-100 (1991-92)	90				
	健康相談	40-100 (1991-92)	90				
	予防接種	10-100 (1991-92)	90				
21.6	アメリカ予防サービス検討委員会が推奨する検診、健康相談及び予防接種を患者に提供するプライマリケア提供者の割合を増加させる		50				
	全患者の81-100%にサービスを提供したプライマリケア提供者の割合						
	子供のための予防サービス						
	ヘモグロビン/HbA1c						
	小児科医	78 (1992)	50				
	開業看護師	77 (1992)	50				
	家庭医	52 (1992)	50				
	眼検査(斜視及び弱視)						
	小児科医	64 (1992)	50				